

—現代作曲家シリーズ—

メッセージ
須川展也が奏でる21世紀への音楽

Just Composed 2000
in Yokohama

ジャスト・コンポーズド2000
イン・ヨコハマ

平成12年7月8日(土)

13:30開場 14:00開演

横浜みなとみらいホール 小ホール

(桜木町 下車 徒歩12分 クイーンズスクエア1F奥)

【出演】

須川 展也 (サクソ)

山口 多嘉子(マリンバ・打楽器)

小柳 美奈子(ピアノ)

【特別出演】

佐藤 允彦 (ピアノ)

【プログラム】

2000年度委嘱作品 世界初演

佐藤 允彦 「遊行(ゆぎょう)」(サクソ・ピアノ)

吉松 隆 「虹色ぶりすむ」(1984年 横浜市委嘱作品)(ピアノ・打楽器)

別宮 貞雄 「街の歌」より第1・第2楽章(サクソ・ピアノ)

湯山 昭 「マリンバとアルトサクソのためのディヴェルティメント」(マリンバ・サクソ)

吉松 隆 「融けてゆく夢」(サクソ・ピアノ・打楽器) (磯田健一郎編曲)

クルト・ワイルの作品より (佐藤 允彦編曲)

ほか

【チケット】

一般 **4,000円** 学生・シルバー(65歳以上) **3,000円**

横浜みなとみらいホール チケットセンター 045-682-2000

チケットぴあ 03-5237-9900

ローソンチケット 03-5537-9955 (Lコード36760)

神奈川県民ホールチケットセンター 神奈川県立音楽堂 ほか

チケット発売日 平成12年3月25日(土)

出演者・プログラム等変更になる場合がございます。何卒ご了承下さい。

主催・企画製作:財団法人 横浜市文化振興財団 045(682)4108 後援:横浜市・神奈川新聞社・TVKテレビ・Fmラジオ日本・
Fm yokohama 84.7・横浜JAZZ協会



須川 展也



佐藤 允彦

(SATO Masahiko)

「遊行(ゆぎょう)」

サクソフォンとピアノのための

能因、西行、芭蕉、山頭火、……漂泊へのあこがれは誰しも心底の深いところに持っているに違いない。音楽にもそのような系譜がありはしないか。

この曲は確たる構造を持っていない。演奏者の心のありかた次第でどのようにでも姿を変える。行き暮れて足の止まったところがその日の宿である。

1941年東京生まれ。慶應義塾大学卒業後、1966年から1968年にかけて米国パーカー音楽院に留学、作曲・編曲を学ぶ。帰国後、1969年に初のリーダー・アルバム『パラジウム』でスイングジャーナル誌「日本ジャズ賞」受賞。その後も、数々のアルバムを制作し、国際的にも高い評価を得ている。作曲・編曲家としては、多数のアーティストのレコーディングへの参加や、『オーケストラと三人のインプロヴァイザーのための「乱文」』(1987年)『WAVE IIIとオーケストラのためのコンチェルト』(1988年)などの実験的作品、「万国博覧会～地方自治体館」、「花と緑の博覧会～JT館」などのパピリオン音楽などを手掛けている。さらにテレビ番組、映画、コマーシャルの分野での活躍も有名である。1993年、日本武道館に千人の僧侶を集めて開催した声明コンサート“千僧音曼荼羅～BUDDHIST MUSIC with 1000 Shomyo Voices”において、作曲・編曲に加えて音楽監督も担当し、各界より多大な評価を受ける。最近では、自己のプロデュース・レーベル(BAJ Records)を創設させ、次々と話題作を発表している。

http://www.mmjp.or.jp/m_satoh

【 出 演 】



須川 展也

(SUGAWA Nobuya)

佐藤允彦さんと、このJust Composed 2000 in Yokohamaからお付き合いをはじめることが出来るというのがとても楽しみです。実はほかの演奏会でも佐藤さんをお願いしたい仕事があったのですが、7月のこの演奏会で劇的な良い出会いをスタートさせたいと思い7月まで出会いを取っておく事にしました。おそらく佐藤さんのことですから、アジアンテイストな新曲を作っていただけたと思いますが、演奏会最後で佐藤さん独特のはじけた感じを出してみたいと思っています。

今回の選曲の切り口は現代音楽における和声の展開とリズムとに集約されるでしょう。ジャズやポピュラー音楽の自由な楽曲構成に影響された作曲家の作品が並びます。一般的な現代音楽のイメージではないかもしれませんが、現代曲ですから、お客様のイメージを裏切ったところもあるでしょう。演奏家としては、お客様が現代曲に触れた時に感じる独自の緊張感を共有したいと思っています。

(2000/2/11みなとみらいにて)

東京藝術大学に学び、第51回日本音楽コンクール管楽器部門、第1回日本管打楽器コンクール・サクソフォン部門において最高位を得てデビュー。磨きぬかれた美しい音色、極めて高度なテクニック、洗練された音楽性は国内のみならず、ヨーロッパやアメリカなどでも高い評価を得ている。ソロやアンサンブルで多くのCDをリリースし、受賞多数。JT音楽家シリーズのテレビCMでは最後の出演者となる。現在、東京藝術大学講師として後進の指導にあたるほか、東京佼成ウインドオーケストラのコンサート・マスター、サクソフォン四重奏団「トルヴェール・クナルテット」のリーダーもつとめる。



山口 多嘉子

(YAMAGUCHI Takako)

東京藝術大学打楽器専攻卒業、同大学院修了。

1982年NHK交響楽団との打楽器コンチェルト「アフロ・コンチェルト」でソリストデビュー。この演奏が芸術祭優秀賞受賞曲となる。以後、CD「シグナルズ フロム ヘブン」内のマリimbaコンチェルト(伊福部昭 作)のソロをはじめ、「現代の音楽展」、「サントリー現代音楽祭」、NHK-FM「午後のリサイタル」「FMリサイタル」ほか数々の演奏会、音楽祭に出演。ソロ活動だけでなく、「山口多嘉子パーカッション・ランド」を率いてのアンサンブル活動も行い、1995年にCD「バードリズム」を東芝EMIよりリリースした。



小柳 美奈子

(KOYANAGI Minako)

伴奏のイメージを変えてしまうアンサンブル・ピアニスト。さまざまなプレーヤーの呼吸の機微を読み取り、それに寄り添うしなやかな感性、インスピレーションを喚起するサポートは、演奏家にも評論家たちにも、好評を博している。吉松隆「サイバーバード協奏曲」準ソリストとして、フィルハーモニー管弦楽団(イギリス)との共演、Universidad Europea Saxofon(スペイン)及び第2回若いソリストのための国際サクソフォン・コンクールで公式伴奏者をつとめ、アメリカ・メキシコ・トルコなど海外でも高い評価を集めた。ソロCDには「夢の動物園」①、②があり、須川展也氏をはじめとした共演でのレコーディングは十数枚を越える。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ピアノを安川加寿子、梅谷進、秦はるひ各氏に師事。

本年度委嘱作曲家 佐藤 允彦は、黒田恭一、須川展也、白石美雪の3氏により選ばれました。

黒田 恭一 (KURODA Kyouichi)

音楽評論家。早稲田大学卒業と同時に評論活動を開始。音楽雑誌、女性誌で健筆を振る。「オペラへの招待」(朝日新聞社)、「はじめてのクラシック」(講談社)など著書多数。NHK-FM「20世紀の名演奏」にレギュラー出演中。1938年、東京生まれ。

白石 美雪 (SHIRAISHI Miyuki)

東京に生まれる。東京藝術大学、及び同大学院修士課程修了。20世紀の音楽を中心に幅広く研究活動を展開している。音楽評論も手がけ、新聞、雑誌でコンサート評、CD評を担当。NHK-FM「現代の音楽」にレギュラー出演している。著作は『はじめての音楽史』(音楽之友社、共著)『武満 徹 音の河のゆくえ』(平凡社、共著)など。現在、武蔵野美術大学助教授、東京学芸大学、国立音楽大学非常勤講師。

須川 展也 (SUGAWA Nobuya)